

(八月のことば)

宗家

今年

この時

明治の気骨に学ぼう

吟のお陰で日本の歴史に触れ得る。特に幕末から明治。それも日清・日露の戦役までの明治の人々は輝いて見える。

「後藤新平」を書いた本に接した。

日清戦争の検査や台湾の統治等で、この知識を元は胆力を入れて断固として仕事を成した事が、今日のコロナ対策と相まそ特に印象深く感動した。拙詩を添えたので、所見頂きたい。

後藤は任された二月と云う短期間で検査所を作り上げ、戦勝で沸き立っている帰還者全この将平を対象にして、断固として検査をやり返き、戦死者より圧倒的に多くの死者を出すであろう恐れのある疫病を食い止め得た。

一方、東北大地震の時、最も多額の義援金が台湾から贈られたが、日本による台湾統治のお陰で今日でも尚、日本の事を恩義に感じてゐる人達が多い。その様な優れた統治が成されたのである。

コロナで私共はまことに辛い生活を強いられている。政治も経済も大変であるが、対策が混沌としている感が拭えない。

近代に於ける私共の大先輩に学んで、日本人の懸念命を思い起こし、この難局を切り開きたいものだ。

(令和二年八月)